

PART

5

钣金編

- 64 ボデー修正装置・溶接機の所有率
- 66 3次元計測機・アライメントテスターの所有率
- 67 修理方法及び技術情報の入手先【複数回答】
- 68 スキャンツールの所有台数・使用率
- 70 スキャンツールの使用場面【複数回答】

ボデー修正装置・溶接機の所有率

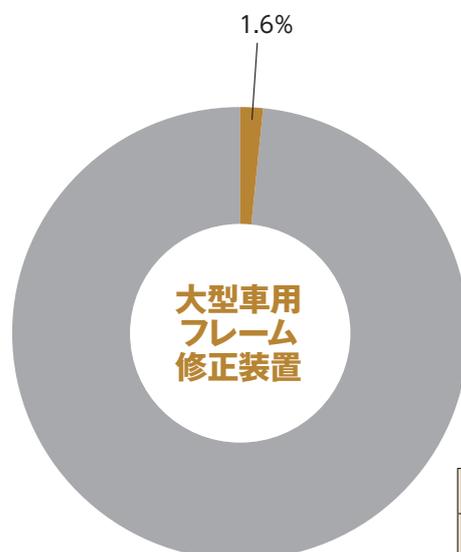
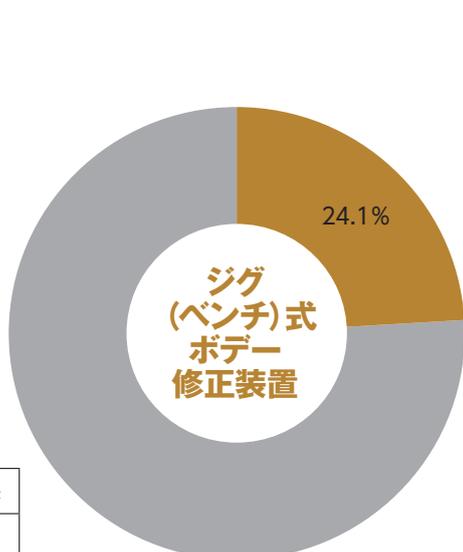
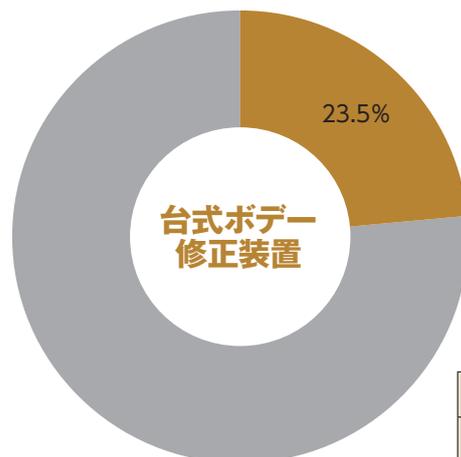
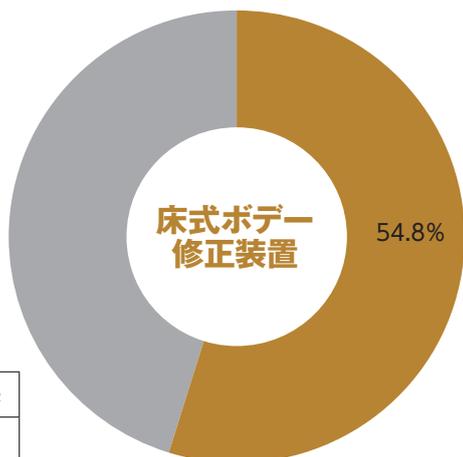
ボデー修正装置に関しては、過半数の工場が床式を採用していると回答。限られた作業スペースを有効に使えるという利点は大きい。

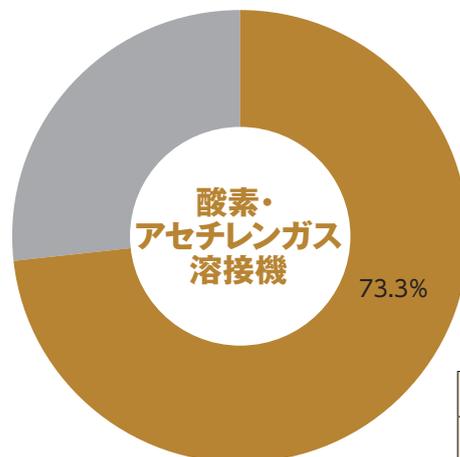
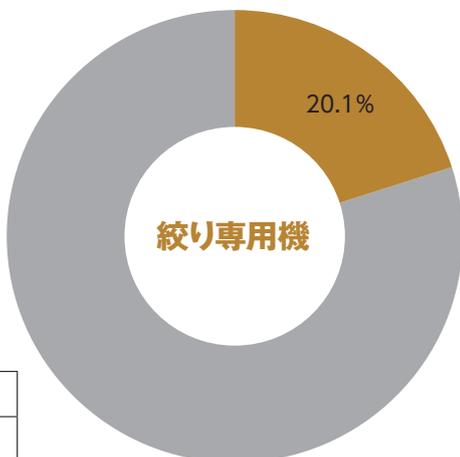
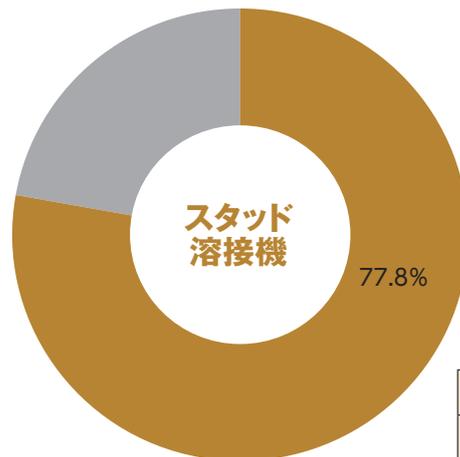
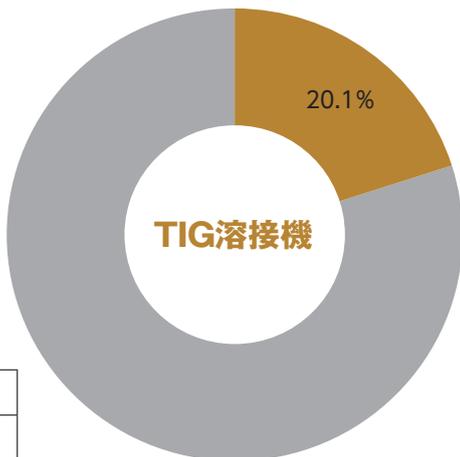
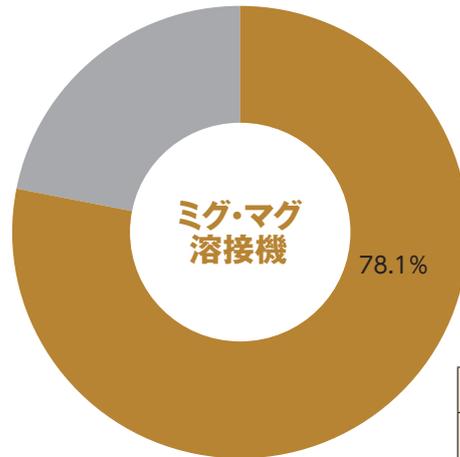
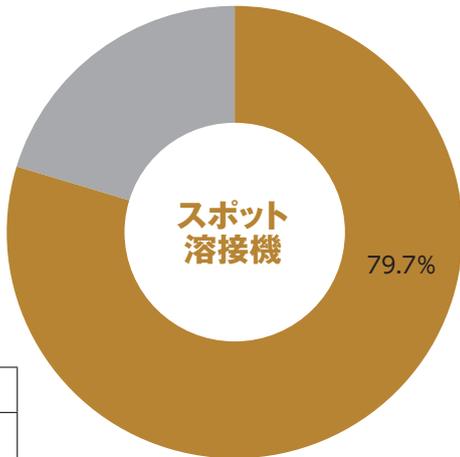
一方で、より高精度な計測が容易にできるジグベンチ式や、大破車の引き作業に適した台式にも一定の支持が集

まった。近年はボデーアライメントの重要性が見直されていることから、ジグベンチ式は今後さらに注目が高まるだろう。

溶接機については、スポット溶接機とミグ・マグ溶接機ともに8割近くが保有していた。スライドドアやクォー

ターパネルの引き出し钣金や、絞り作業に用いるスタッド溶接機も保有率が高かった。また、数十年前に頻繁に使用していた酸素・アセチレンガス溶接機も、使用頻度はともかく多くの工場に保有しているようだ。





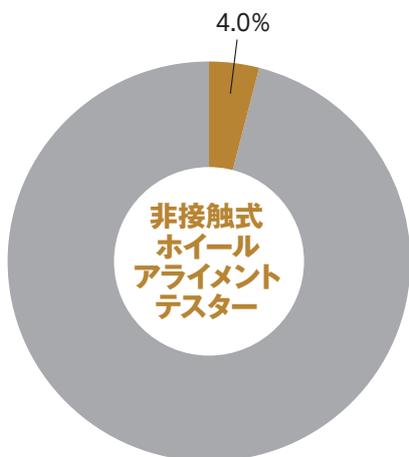
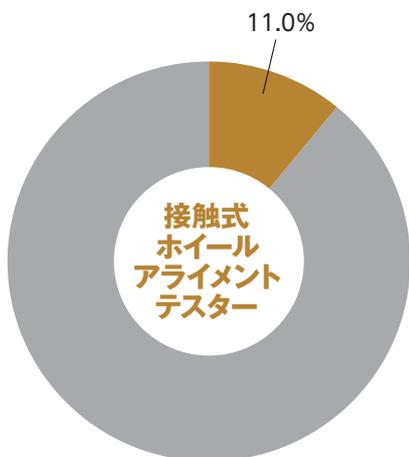
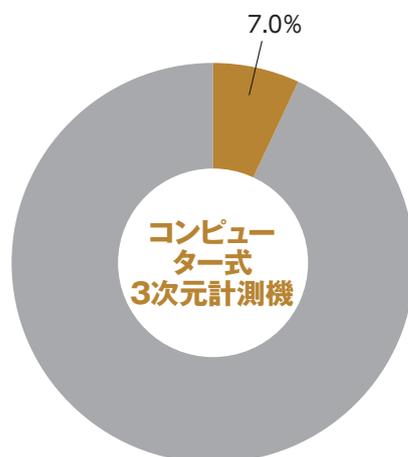
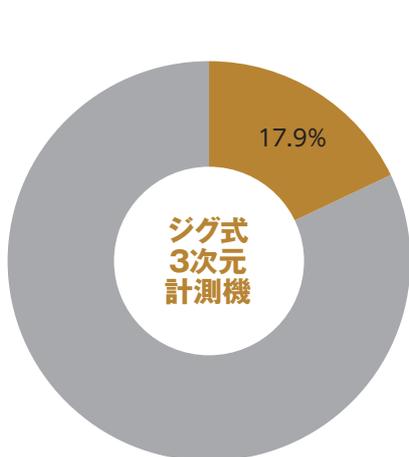
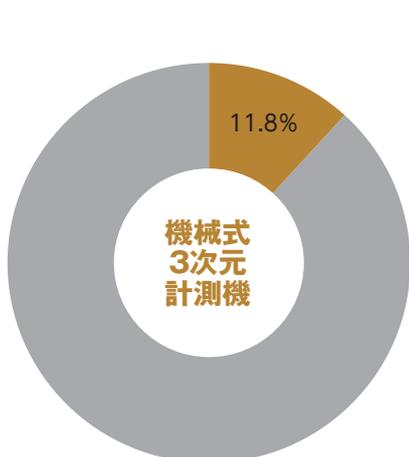
3次元計測機・アライメントテスターの所有率

3次元計測機の保有比率は約10%強、ジグ式でも2割を下回った。大半の工場ではセンタリングゲージやトラムトラッキングゲージなどで計測していると思われる。確実性や効率性を重視するようであれば、ジグ式やコンピューター式3次元計測機の導入も

一考だろう。

ホイールアライメントテスターに関しては、車検整備がメインの工場以外はなじみが薄いのは否めない。近年はADASを正常に作動させるため、スラストラインの重要性を訴える声も一部で耳にする。

それには4輪アライメントをトータルで計測する非接触式が必要だが、実際にはこの数年の間に新設・増設したり、設備投資をした一部の工場で見かける程度に過ぎない。本調査でも所有率は4%と、まだまだ一般的ではないようだ。



修理方法及び技術情報の入手先【複数回答】

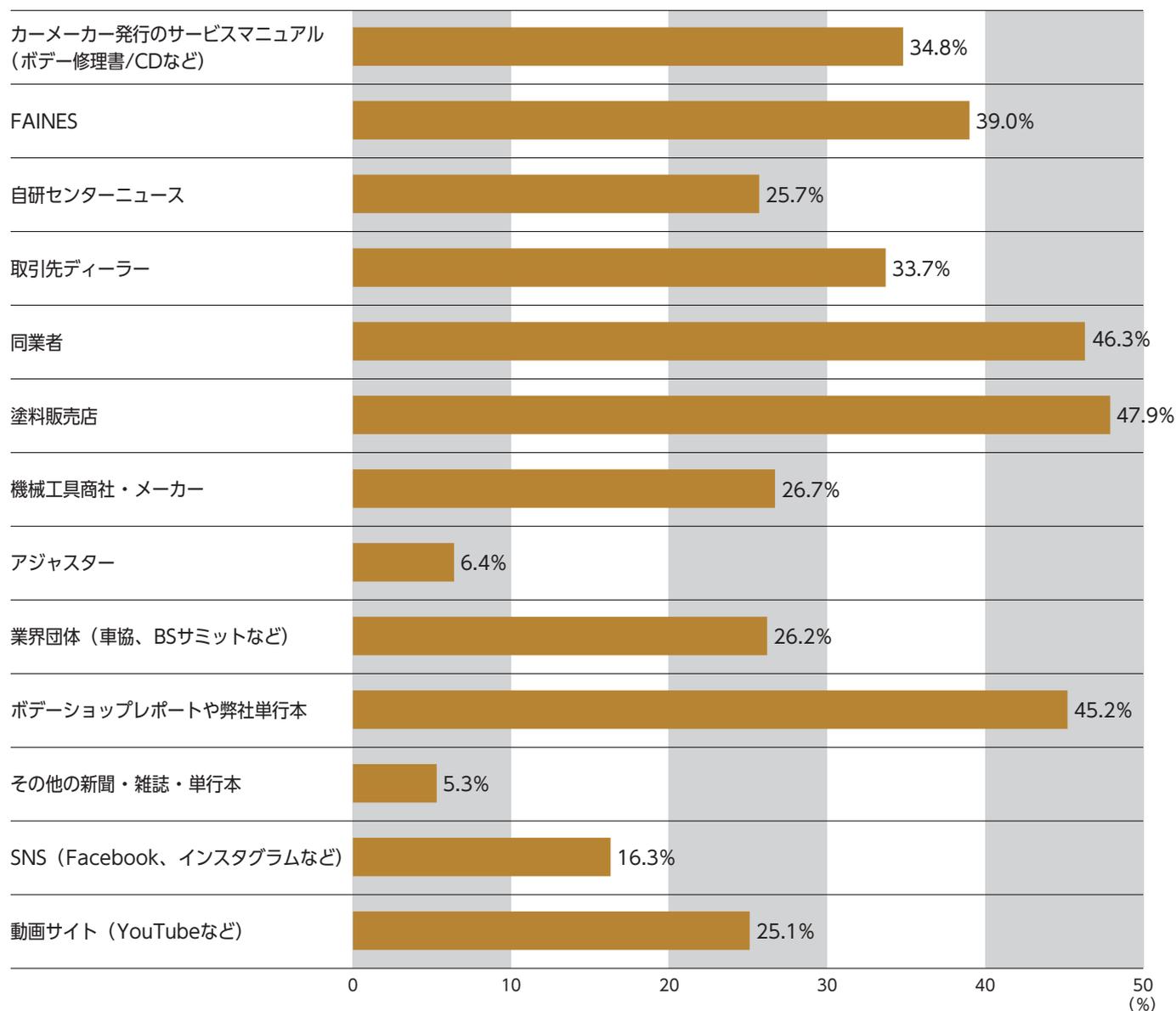
修理方法や技術に関する情報の入手先は、業界情報や新製品情報と同様に、塗料販売店や同業者、業界誌などから入手しているという回答が目立つ。

カーメーカー発行のサービスマニュアルと答えた層はこれらを下回っているが、車種ごとに膨大な量の資料を読

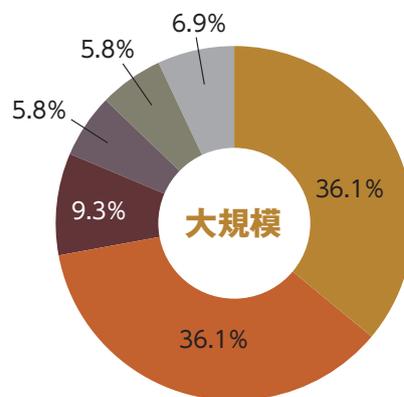
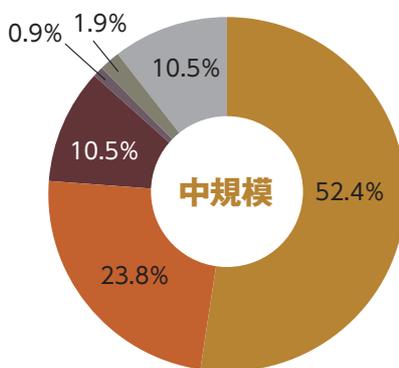
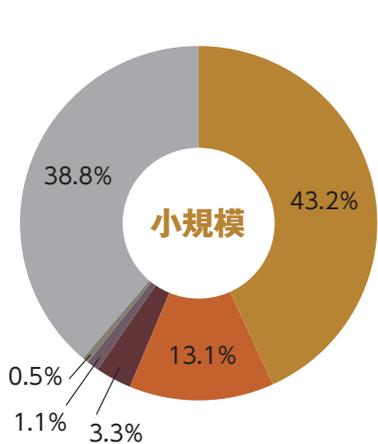
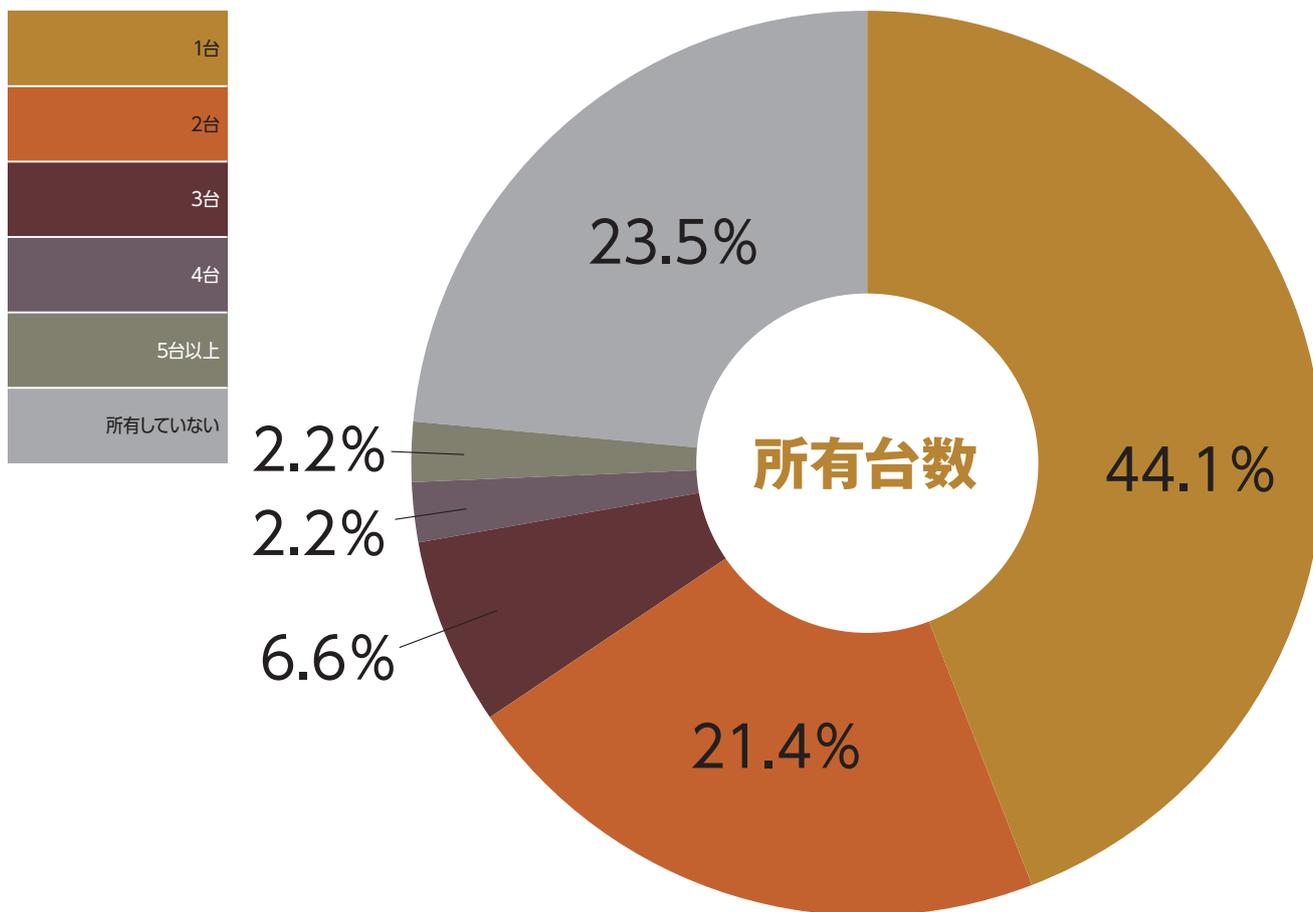
み込む必要があることと、入手には相応の金額を支払う必要があることがネックになっていると考えられる。

また、Facebook やInstagram などの SNS や、YouTube のような動画サイトから情報を入手する層も一定数見られた。インターネットは無料で

様々な情報が得られる大きなメリットがある。一方で匿名でも情報を発信できるため、真偽が不明な情報も多分に含まれている。情報の取捨選択には留意し、誤った情報を鵜呑みにして修理することがないようにしたい。



スキャンツールの所有台数・使用率

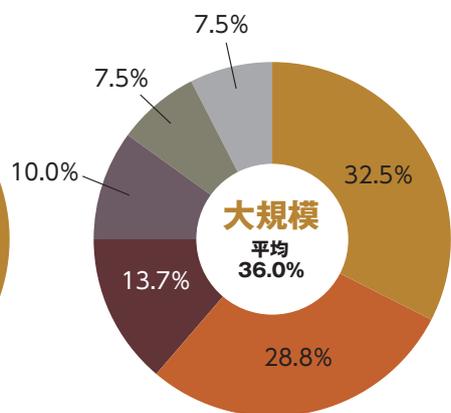
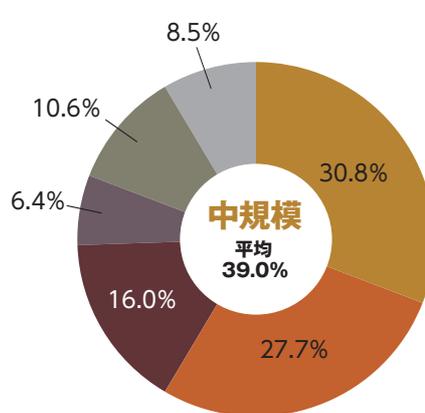
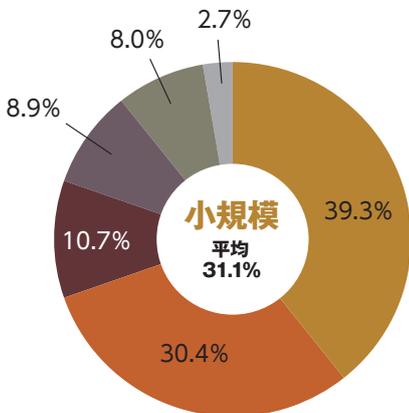
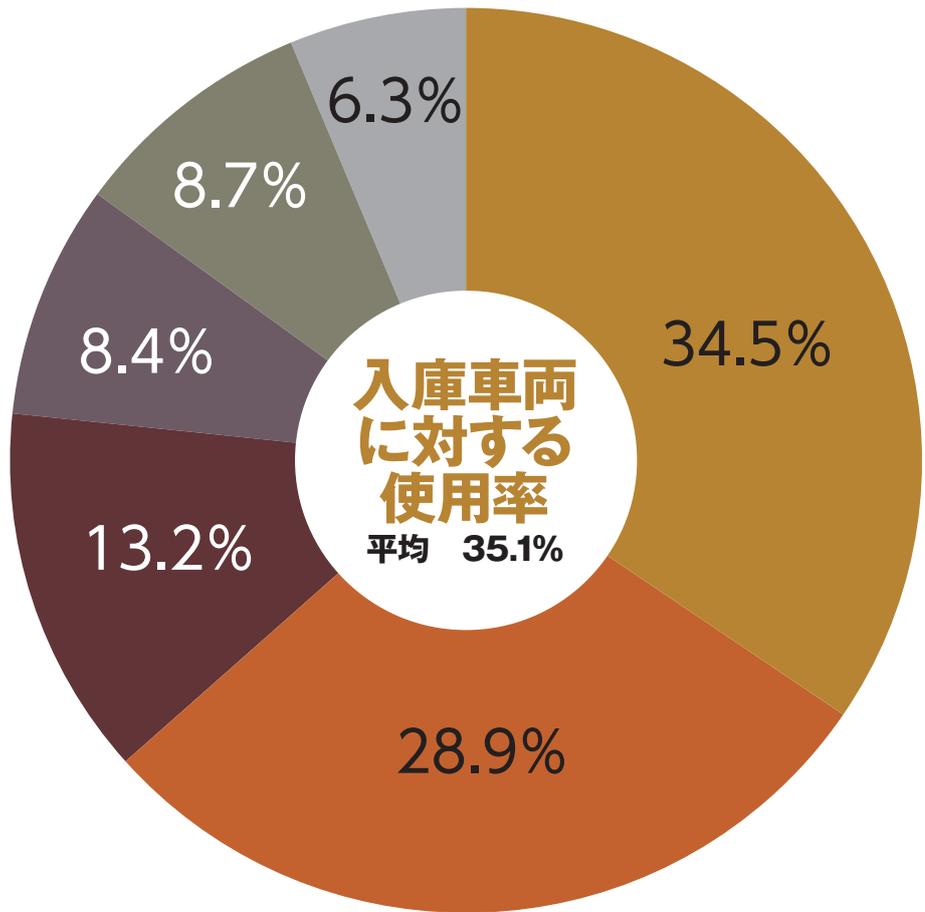


故障コードの検出・消去や学習値の初期化などを行うスキャンツール。HVやASVの車体整備には必須とも言えるが、約2割の工場で所有していないことが分かった。中規模以上の工場では9割が所持していると答えた一方、小規模工場では4割近くが所有し

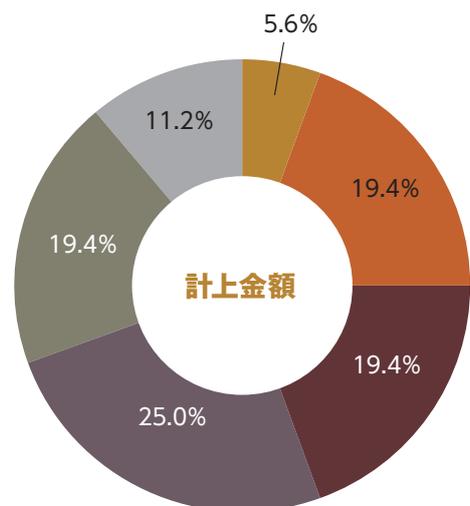
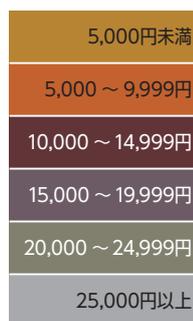
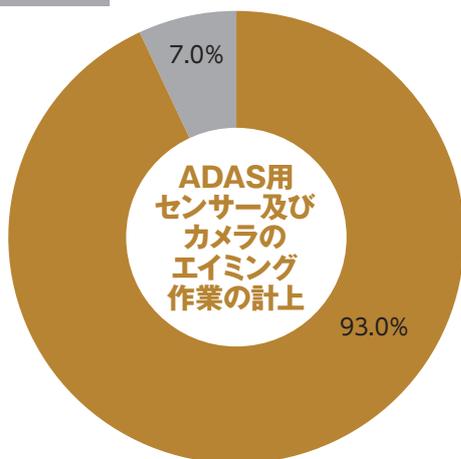
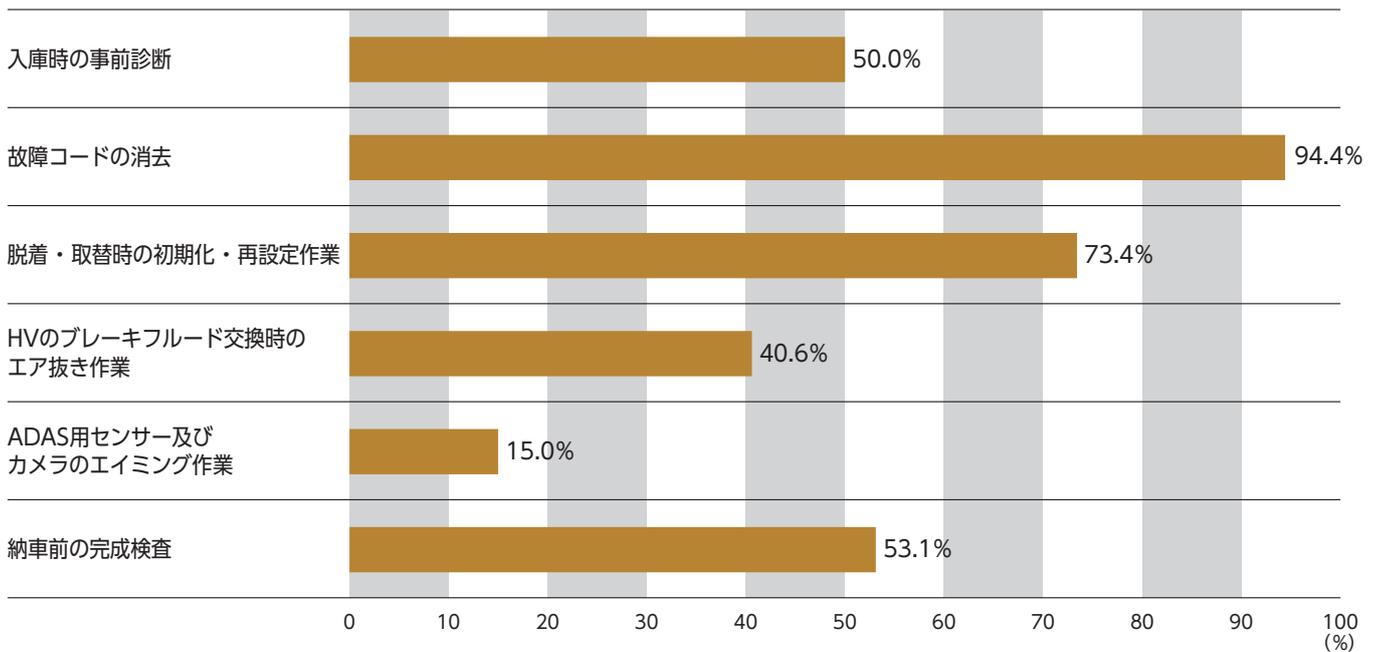
ていないと回答した。これまでスキャンツール補助金制度が幾度も実施されていたにもかかわらず、導入に至らなかったのは何かしらの理由があるのだろうか、本調査ではうかがい知ることができなかった。

しかし、スキャンツールの使用率

は20%未満が3割強で最多。所有率と使用率には乖離があることが分かった。その理由としては、専門工場が入手できる汎用スキャンツールでは作業可能な範囲に制約があることや、軽補修を含む小破車の入庫が多く、使用機会が少ないことなどが考えられる。



スキャンツールの使用場面【複数回答】



平均金額	15,615.6円
最低金額	3,000円
最高金額	50,000円

スキャンツールの使用シーンについては、故障コードの消去が9割超でトップ。次に脱着・取替時の初期化・再設定作業で、大半の工場ではスキャンツールの基本機能で事足りているように見える。

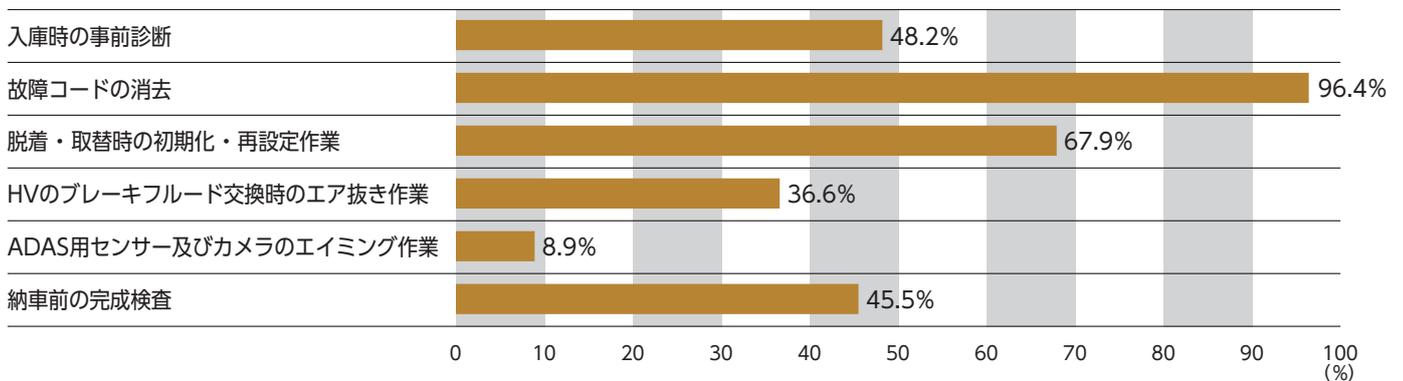
一方、大規模工場では入庫時の事前

診断、納車前の完成検査のいずれも5割を超えた。入庫時と納車前の車両状態を診断しておけば、納車後にトラブルが発生しても迅速な対応がしやすくなる。OBD車検の始動を控える中、保険会社やカーオーナーへの費用請求は難しいものの、操作に慣れるという

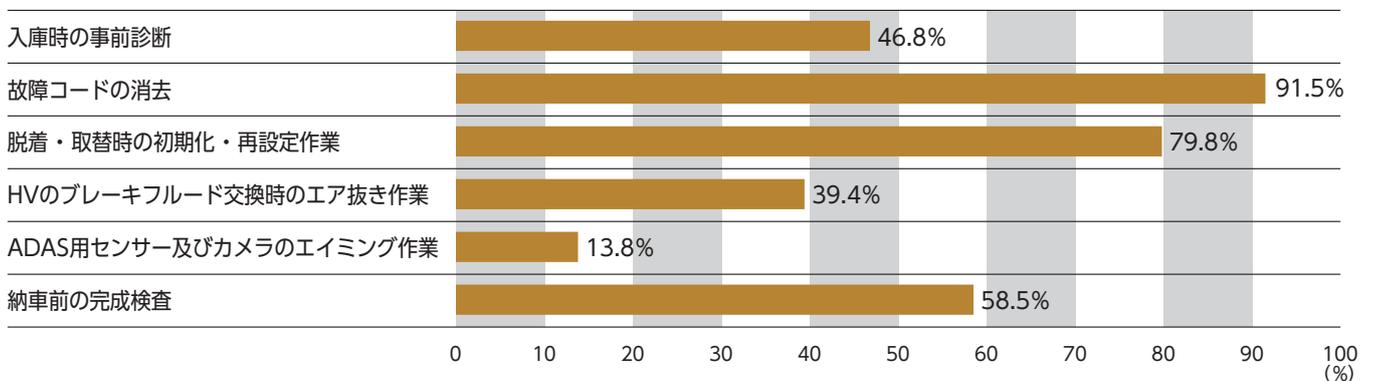
意味でもスキャンツールを積極的に活用したい。

また、エイミング作業にスキャンツールを活用している回答者のうち、9割以上が作業費を計上している。その金額は15,000円～20,000円未満が全体の1/4を占めた。

小規模



中規模



大規模

